

株式会社セシム（警備業）

1.基本データと業務概要

- ・本社所在地:東京都豊島区
- ・所在地:東京都豊島区
- ・従業員数:180名
- ・業種:警備業 保安工

通常、警備会社では数少ない保安規制設置を含む首都高速道路規制業務、ネクスコ規制、一般道の街路規制業務、交通誘導、イベント警備、施設内外の巡回、出入管理、受付、車、自転車による地域巡回を含む施設警備を展開

2.熱中症リスクが懸念される作業現場の概要

作業場所

- ・屋内/屋外:屋外(高速道路や一般道路等、建設現場での規制、交通誘導)
- ・リスク要因:高速道路上の一部トンネル内等、トンネル内の規制・誘導業務にあつては気温40℃超になることがあり、長いトンネル内は空気の循環が悪いため、常にWBGT値が高値のままであることが多いにもかかわらず、休憩所の確保が困難。交通誘導警備においては、建設会社が設置した休憩所を使用できない場合あり(このためWBGT値は常時測定・管理し、リスクに応じて適宜場所を確保して休憩)

作業内容

首都高速道路、一般道等の道路工事では保安規制(工事帯を設置し、車線規制)、その後一般車の監視及び規制帯内への車両誘導、作業終了後は作業車を退出させ、規制帯を撤去。施設警備では巡回、出入管理、受付等

WBGT値計測体制

- ・WBGT指数計配備状況:事務所および作業車の車両基地、その他巡察時に持ち出し用を配備
- ・計測実施状況:原則的に最高気温が30℃を超えた場合に計測



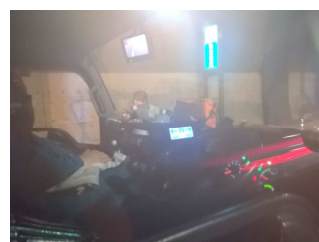
車両基地配備のWBGT指数計



日照が避けられない警備現場



炎天下でも上下長袖の上に
反射材ベスト着用



WBGT高値のトンネル内現場

3.基本的取組事項

作業環境管理

- ・熱中症予防対策として塩分補給用飴、タブレット、空調服、熱中対策セットを配備
- ・休憩場所の整備として建設現場の場合は元請から許可された休憩場所の共同使用、駐車スペースがあれば、自社の車を配車して休憩用に確保



車両基地に配備されているWBGT指数計と熱中症対策セット



車両基地には冷凍のペットボトルを常備。警備場所に向く際に携帯



塩分補給用飴、冷凍飲料



休憩所として使用する作業車



休憩所として使用する高速道路上の作業車

作業管理

- ・空調服を支給
- ・体感を5℃下げるヘルメット、麦わらの底を装着したヘルメットの着用を推進
- ・人員の管制表を社内サーバーで管理し、WBGT値の上昇など熱中症のリスクが高まった時点で管制表に警戒する旨を記入し情報共有すると同時に、各現場のリーダーに電話連絡して休憩や水分と塩分の補給を指示
- ・WBGT値が即効性のある数字として認識させるのが難しいため、WBGT高値の場合は、事務所より「熱中症注意の日」として、配置連絡時に併せて周知徹底
- ・WBGT値高値の場合、1人配置の現場には事務所から頻繁に連絡をとり、人員の健康状態を確認。
- ・水にぬらして気化熱で冷える「クールタオル」を支給、適宜使用



気化熱で冷却するクールタオル



空調服



ヘルメットに装着できる底

- ・年齢と持病を確認の上、配置や時間帯を考慮し、スケジュールを構築
- ・業務の性質上、業務開始時にアルコールチェッカーでアルコールをチェック、職長は日報にチェック記録を記載し健康管理にも利用
- ・定期健康診断で高血圧、糖尿病と診断された従業員、高齢の従業員については、勤務場所・時間を考慮
- ・事務所に出勤してから現場に向かう人員には経口補水液等を携帯させ、直行直帰の人員には、飲料、アイス購入費などを補助

4.特に配慮している事項

特に配慮している事項とその対策

警備会社は元請のルールに依存せざるを得ない。休憩所も依頼して設置可能な現場とそうでない現場がある。超大手を除く元請は厳格なルールを設けている現場が少なく、警備会社という立場上、休憩時間の増加などの相談はしづらい状況。また制服は公安委員会への届出制のため安易に変更できないため、空調服などを着用できない場合がある。WBGTが高値になっても、警備の都合上休憩を取得できないケースもある。元請への依存と自社のルールのバランスに苦慮。これらを踏まえて熱中症対策を構築

①可能であれば通常の配置人員を増員

警備という業務の性質上、休憩時に人員が不在ということが許されないため、WBGT値の高値が予測される場合は、可能であれば通常の配置人員より増員して交代で休憩できるようなシフトに変更

②教育と熱中症対策への認知促進

1年に1度、5月から6月にかけて開催する安全大会で熱中症対策の学習を実施、新入社員には個別に教育を実施。季節に応じて月1回、総務から熱中症対策の告知、年2回の現任研修時に教育を徹底

③事務所担当の巡視

WBGT高値となった場合、事務所から担当が現場に出向き、従業員に冷凍の経口補水液やアイス等を補給させるとともに、健康状態を観察

④過去の熱中症の発生事例では、何かしら問題が発生した従業員の多くが高血圧、持病(糖尿病等)、高齢のいずれかの要素を含む場合が多かったため、それを踏まえて特に該当者については観察を重視し、声掛けなどを実施



新入社員の教育を実施



反射材ベストの下に空調服を着用